

5、第4学年の取り組み

(1) 算数チャレンジの取り組み

時 期	内 容
1 学期始め頃 (算数のオリエンテーションの時)	<ul style="list-style-type: none"> 算数チャレンジの目的と方法を伝える。 宿題として算数チャレンジに取り組ませる。
1 学期中頃 (算数科の授業の時)	<ul style="list-style-type: none"> 再度、算数チャレンジの方法について確認する。
1 学期中頃～終り頃 (家庭学習のやり方を見つける時)	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習で単元を通して予習をしている児童のノートを紹介し背面掲示板に掲示して、自分でも取り組めそうな方法を考えさせる。
2 学期中頃～終わり頃 (算数科授業 導入時)	<ul style="list-style-type: none"> 前時と本時の学習で、どのような学びが広がるか全体で確認をする。 ▶算数チャレンジをした子への価値付けをする。

(2) 算数チャレンジに取り組んだ成果 (◎) と今後の課題 (●)

◎導入～本時まで時間がかからないため、習熟度に合わせた適応問題を解く時間を確保することができた。

◎早く問題を解き終えた児童が、困っている児童に対して、問題の解き方に関する方法を説明することができるようになった。

●習熟度別に見ると、Aの児童とCの児童の学力の差が明確になってきた。

●算数チャレンジに取り組んでいない児童に対して、どのような声掛けが必要なのか、なぜ取り組めないのかを考える必要がある。

(3) 目指す児童の姿として参考となる資料

【交流タイム】



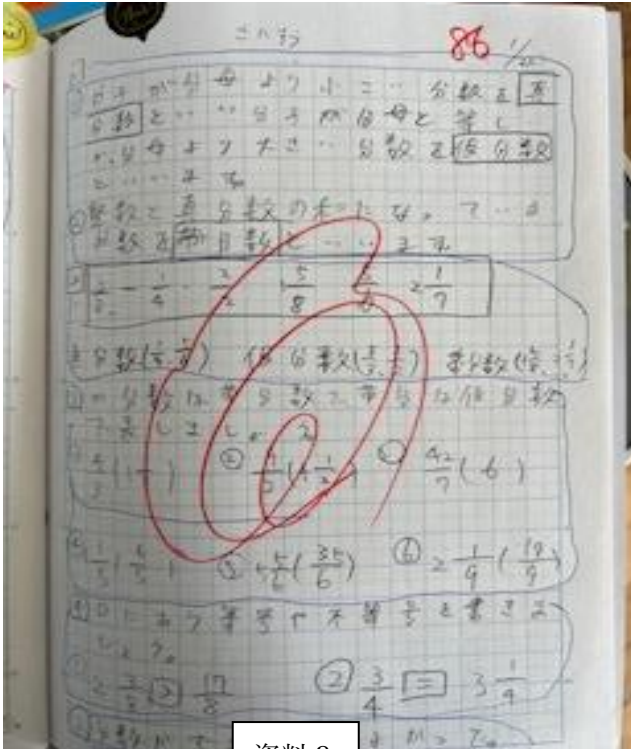
資料 1



資料 2

自分の考えがもてた児童は、お互いに自分の考えを伝えたり、答えを導くためのヒントを出したりした。何度も繰り返し、ヒントを出したり、説明したりすることで、説明の仕方に工夫が見られるようになった。一方向だけでなく、双方向のやり取りが生まれ、他の児童が納得できる説明をすることができるようになってきている。(資料1、資料2)

【家庭学習のノート】



資料3

予習として取り組むことで、次の日の学習で再び解きなおすことができている。

また、学習のポイントで算数言葉を用いてまとめることができている。(資料3)

4年生では、算数チャレンジの取り組みせ方として【教科書を読む→問われていることに線を引く→問題を解いてみる→理解度チェックをしておく】の4段階を行うようにしている。教科書を先に読み、授業で扱う内容を先取りしておくことで児童の学習中の習熟度を伸ばすのがねらいである。

次に、教科書で問われていることに、正しく答えるという観点からも、わかっている数字に着目させておきたい。最後は、自己の理解度を明確にすることで、学習時におけるポイントを抑えやすくなった。